

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	思春期保健連絡会の設置						掲載ページ
							112
コスト	事業費	平成26年度執行額	平成27年度予算額	政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,426 「思春期保健連絡会」 事業の総額 本事業はその一部	千円	3,605 「思春期保健連絡会」 事業の総額 本事業はその一部	千円	施策名	青少年の健全育成

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	思春期の心身の変化を正しく理解し、自分自身の心と体を大切にする健康教育を推進するため、医療・学校・地域・行政等の関係者による連絡会を開催し、現状の把握や課題の共有および連携強化を図るとともに、思春期保健の対策等について協議します。協議の結果等を踏まえ、思春期の健康教育を効果的に実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	思春期の子ども課題を共有し、健康教育を推進するために、医療・保健・教育等の思春期保健関係者による連絡会を開催します。また、小中学校を対象に思春期健康教室を実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	思春期保健連絡会の開催 思春期保健連絡会を開催し、関係者の連携を強化します。思春期保健の課題を共有し、効果的に健康教育を推進するのに重要なことから指標としました。 （最終目標と最終年度）	6 回	適切な開催	1 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	思春期健康教室の開催 小・中学校における健康教室の実施による知識の普及啓発、課題の共有が必要なことから、指標としました。 （最終目標と最終年度）	77 回	適切な実施	89 回			順調
					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 思春期保健連絡会の開催回数は前年度から減少しましたが、連携強化のための会議は適切に開催できています。また、小中学校を対象とした思春期健康教室は好評で、開催回数も増えたことから、大変順調としました。また、前年度作成した保護者向けの「北九州市の思春期の子どもを知るためのファクトシート」とその解説本について、学校や保護者へ周知しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 様々な関係機関と連携強化を図ることで、思春期健康教室の実施を推進しており、事業を効果的に実施できています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
助産師による小中学生を対象とした思春期健康教室を確実に実施し、効果的な思春期の心とからだの健康教育を推進します。あわせて、北九州市の思春期の子どもの実態に基づいたファクトシートを利用して、引き続き保護者に対する啓発や支援体制の検討を行い、思春期の課題解決に取り組めます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子ども・保護者のメディアリテラシー向上やネット監視対策に向けた取り組み						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,045	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 出会い系サイト等をはじめとするインターネット・携帯電話でのトラブルに子どもたちが巻き込まれる事件が多発し、青少年を取り巻く新たな有害環境として問題になっていることから、広報・啓発を中心とした有害サイト等メディア上の有害情報対策を推進します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	「出会い系サイト等」の危険性を周知するため、中学生を対象とした非行防止教室の実施や、リーフレット配布、街頭ビジョンでの啓発動画放映等、啓発活動に取り組みます。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		出会い系サイト等の危険性を周知する非行防止教室の参加者数 「出会い系サイト等」を使用して犯罪に巻き込まれる子どもたちの数が増加傾向にあることから、出会い系サイト等について啓発する非行防止教室の参加者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度） —	9,916 人	—	7,155 人 — %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	非行防止教室については、平成25年度から3年間で、市内の全中学校において実施することにしており、平成26年度は、門司区・若松区・戸畑区内の中学校で予定どおり実施しました。また、スマートフォン等の危険性や家庭でのルールづくりを呼びかけるリーフレットを作成し、小学4年生から中学生の保護者を対象に配布するとともに、夏季、冬季、春季の長期休業中に、啓発動画を市内の街頭ビジョンで放映するなど、予定していた啓発活動は着実に実施しましたので、順調としました。しかしながら、携帯電話の所有率の向上に伴い、福岡県内でも「出会い系サイト等」を使用して犯罪に巻き込まれる子どもたちの数は増加する傾向にあり、引き続き対策が必要です。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	非行防止教室は、少年非行の動向に精通している必要があるため、県警から派遣されている青少年非行対策担当課長が講師を担当しています。これにより、効率的に事業を実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

有害環境から子どもたちを守るには、子どもたちだけでなく、保護者等に対する一層の周知・啓発が必要であると考えており、携帯電話・スマートフォンの利用における家庭でのルールづくりを呼びかけるリーフレット作成や啓発動画放映等、視覚的で、効果的な啓発活動に引き続き取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	シンナー等をはじめとした薬物乱用防止に向けた広報・啓発						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,926	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	本市におけるシンナー等乱用少年の検挙補導人員は平成25年度以降、0人となっているものの、若年層を中心に危険ドラッグの乱用が懸念されるなど、新たな課題も生じており、薬物乱用は、依然として憂慮すべき状況にあります。そこで、薬物乱用の撲滅に向けて、行政と地域が一体となった総合的な対策を推進します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	シンナーや危険ドラッグ等、薬物の乱用撲滅に対する機運を高めるため、薬物乱用防止教室の他、小中学生を対象としたリーフレットの作成、街頭ビジョンでの啓発動画の放映等に取り組みます。また、夏季休業中を対象とした全市一斉夜間非行防止パトロールを開催する他、地域における薬物乱用に向けた啓発活動やパトロール等、地域が主体的に取り組む活動を支援する「危険ドラッグ撲滅地域モデル推進事業」の実施を通じて、薬物乱用防止啓発・環境浄化活動の推進に取り組みます。								
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】			
	啓発・環境浄化活動参加者数 薬物等乱用少年の撲滅のため、啓発・環境浄化活動を指標として掲げました。 （最終目標と最終年度） 16,000人（平成26年度）	20,316人	16,000人	21,339人 133.4%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調			

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	薬物乱用少年の撲滅に向けた啓発・環境浄化活動として、引き続き、薬物乱用防止教室や啓発リーフレット配布、啓発動画放映、全市一斉夜間非行防止パトロール、危険ドラッグ撲滅地域モデル推進事業を実施しました。啓発・環境浄化活動の効果もあり、シンナー乱用撲滅に関する市民意識が向上し、シンナー等乱用少年の検挙補導人員が平成25年度以降、「ゼロ」となっていることから、順調と判断しました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	薬物乱用防止教室や出前講演の講師を子ども家庭局の職員や関係機関に依頼することにより、経済的・効果的に実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

薬物乱用防止教室に加えて、地域単位で啓発やパトロールに取り組むモデル事業を実施する他、小中学生を対象としたリーフレット作成、街頭ビジョンを活用した啓発動画の放映等、視覚的な啓発活動に引き続き取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	出会い系サイトをはじめとする有害環境対策事業						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,045	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	メディア上の有害環境の危険性を正しく伝え、子どもたちが事件や犯罪に巻き込まれるのを防ぐため、広報・啓発を中心にその対策を実施します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	「出会い系サイト等」の危険性を周知するため、中学生を対象とした非行防止教室の実施や、リーフレット配布、街頭ビジョンでの啓発動画放映等、啓発活動に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	啓発リーフレット作成数	53,000 枚	—	57,000 枚	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	子どもたちが出会い系サイト等をきっかけとした事件に巻き込まれるケースが増加しています。保護者への注意喚起が必要なことから、啓発リーフレットの作成部数を活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度） 現状維持			—			
					順調	順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ			
				遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	中学校を対象とした非行防止教室の開催ほか、スマートフォン等の危険性や家庭でのルールづくりを呼びかけるリーフレットを作成し、小学4年生から中学生の保護者を対象に配布するとともに、夏季、冬季、春季の長期休業中に、啓発動画を市内の街頭ビジョンで放映するなど、予定していた啓発活動は着実に実施しましたので、順調としました。 しかしながら、携帯電話の中高生の所有率の向上に伴い、福岡県内でも「出会い系サイト等」を使用して犯罪に巻き込まれる子どもたちの数は増加する傾向にあり、引き続き対策が必要です。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	「出会い系サイト等」について啓発する非行防止教室は、少年非行の動向に精通している必要があるため、県警から派遣されている青少年非行対策担当課長が講師を担当しています。これにより、効率的に事業を実施することができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
有害環境から子どもたちを守るには、子どもたちだけでなく、保護者等に対する一層の周知・啓発が必要であると考えており、非行防止教室の他、携帯電話・スマートフォンの利用における家庭でのルールづくりを呼びかけるリーフレット作成や啓発動画放映等、視覚的で、効果的な啓発活動に引き続き取り組みます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	地域会議推進事業						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,127	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	地域ぐるみでの青少年の健全育成・非行防止への取り組みを進めるため、主に中学校単位で、自治会、社会福祉協議会、PTAなどにより組織された地域会議の活動を支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	事務経費の支援等を通じて、地域会議の活動を支援します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	地域会議の活動支援		—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域全体で、青少年の健全育成・非行防止への取り組みを進めるため、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度） —						
	—		—	—	—	順調	順調
（最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域会議開催経費、事業経費の支援等を実施し、青少年の健全育成・非行防止に寄与することができたので順調としました。地域会議は、青少年の健全育成を図る上で有意義であり、必要不可欠であると考えています。現状は、活発に活動している団体とそうでない団体との差が見受けられます。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	予算配分の変更・見直しを行うなど、効率的な執行に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>青少年の健全育成を図る上で、地域との連携は必要不可欠であり、今後とも当該事業を推進していく必要があると考えています。平成27年度も、団体に対する経費の支援等を実施することに加え、当事業の今後のあり方について各区コミュニティ支援課等と検討を行い、地域の実情に合わせた効率的な支援に努めてまいります。</p>

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	少年補導委員活動						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,257	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	少年補導委員による地域における補導活動や環境浄化活動を推進するとともに、少年非行防止活動についての情報交換を行います。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	市少年補導委員連絡協議会に係る会議を定期的に開催します。少年補導委員に対する研修会を開催（年に2回）します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	補導活動回数	3,882 回	3,930 回	2,844 回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	補導活動を行うことで、子どもとの密接な関係を築くことができるため、活動指標として掲げました。 （最終目標と最終年度） 3,930回（平成26年度）			72.4 %		
					順調	順調
（最終目標と最終年度）				やや遅れ		

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 少年補導委員役員会や研修会（年2回）を定期的に開催することで、少年補導委員の意欲や能力の向上が図られ、情報の共有、関係機関との連携も進んだことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 委嘱された補導委員一人ひとりが、様々な時間帯で活動を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
子どもと密接な関係を築くとともに、補導委員や関係機関との間における情報交換、共有を推進し、より積極的な活動につなげたいと考えています。なお、本事業は「地域における青少年の見守り体制の充実・強化」の一環として実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	青少年を取り巻く有害環境に関する懇談会						掲載ページ		
							113		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		0	千円	42,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	青少年を取り巻く有害環境の現状認識の共有と各団体共通の取組みを協議するため、「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり推進本部」の非行対策部会等で意見交換を実施します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	「北九州市青少年の非行を生まない地域づくり推進本部」推進本部及び非行防止対策部会を開催します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	推進本部及び非行防止対策部会の開催数	3回	2回	2回	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	非行防止に関する取組みや情報共有化を表す指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）			100.0%			
					順調	順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ			

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	非行防止に関わる関係団体の参加を得て、青少年の非行実態について情報の共有を図り、具体的な施策について検討を進めることができたことから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	関係団体の協力を得て、全市を挙げた体制を実現しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き推進本部、非行防止対策部会等で、関係機関との情報共有を図りながら、具体的かつ効果的な施策の検討、実施に取り組みます。なお、本事業は「非行防止活動の推進」の一環として、実施します。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	健康相談						掲載ページ		
							114		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		1,195	千円	8,802	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	健康推進課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	同居家族や保護者の喫煙による子どもの受動喫煙の害を防止します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	区役所保健福祉課で禁煙したい方の相談を随時受け付けています。禁煙を希望する方へ禁煙外来や卒煙サポート薬局を紹介しています。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	健康相談の数	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	区役所保健福祉課で随時健康相談を実施しています。禁煙の相談の数は集計していないため、数値化できません。 （最終目標と最終年度）					
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ	順調

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 たばこには多くの有害物質が含まれており、たばこの害の普及・啓発を行うことは青少年の健全育成に有効です。健康増進法に基づき、分煙や禁煙の環境づくりをすすめています。また、受動喫煙の害についてもひろく啓発活動を実施しました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 高いコストをかけず、効率的に行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
禁煙を希望する方へは区役所保健福祉課で禁煙外来や卒煙サポート薬局を紹介します。世界禁煙デー、禁煙週間に受動喫煙の害や未成年の喫煙防止を啓発します。全面禁煙の飲食店を「きたきゆう健康づくり応援店」として登録し、市民へ広報しています。喫煙に関するものだけでなく、健康に関する総合的な助言・指導も行います。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	薬物乱用防止等啓発事業						掲載ページ		
							114		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		2,085	千円	16,952	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	保健医療課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	市民、小・中学生、青少年等に対して危険ドラッグ等の薬物乱用防止啓発を行い、薬物乱用のない社会環境づくりを推進します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。
活動計画	青少年に薬物の正しい知識を持ってもらうため、街頭啓発キャンペーンを実施するなど、市民への薬物乱用防止にかかる啓発を行います。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	街頭キャンペーンによる効果的な啓発事業の実施	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市内の中学・高校生やガールスカウト・ボーイスカウト、関係団体の協力を得て、小倉駅前にて啓発資材の配布等を行い、薬物乱用防止に対する意識の向上を図ります。 （最終目標と最終年度）						
	（最終目標と最終年度）				順調	順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ			
					遅れ		

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	街頭キャンペーンでは多くの学生（約140人）の参加を得ることができ、薬物乱用防止に係る意識の向上を図ることができました。 北九州地区（遠賀郡・中間市を含む）のシンナー等薬物乱用少年の検挙補導人員は、平成15年のピーク時には349人だったものが、平成25年には0人となり、現在の啓発活動が一定の成果をあげています。 一方で、シンナーから危険ドラッグへの移行も考えられ、また、薬物乱用の低年齢化も進んでおり、若年層への継続的な啓発が必要です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国が策定した「第四次薬物乱用防止五カ年戦略（平成25年）」に基づき、国・県などの関係機関が連携して総合的な薬物乱用対策に取り組んでおり、本市の関与は不可欠です。本市では、平成12年に「北九州市シンナー等薬物乱用防止推進本部」が、平成24年7月には「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」が設置され、関係各課が連携し、効率的に事業を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

引き続き関係機関と連携して、特に若年層への啓発を中心とした事業をすすめていきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	薬物乱用対策事業						掲載ページ		
							114		
コスト	事業費	平成25年度執行額		平成26年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		757	千円	1060	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	精神保健福祉センター

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 薬物依存になっても、安心して相談でき、回復に向けて支援できる体制づくりを目指します。	活動実績 活動計画のとおり実施しました。
活動計画	平成26年度も前年度に引き続き、従来薬物問題を巡って構築してきたネットワークを活かし、アルコールやギャンブルなども含めた依存問題全般へのアプローチを想定して課題を抽出し、達成可能な課題解決に向け、多機関協同による地域健康教育の推進を目指し、連携システムの強化を図ります。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	薬物の問題で悩む家族のための教室	参加者数 薬物乱用及び依存の問題を抱える家族に対して、正しい知識や接し方を学び、同じ問題を持つもの同士の分かち合いの場所を提供します。 （最終目標と目標年度） 年延60人程度	54人	60人	106人 176.7%	大変順調
薬物・ギャンブル相談窓口の実施回数 薬物乱用及び依存の問題を抱える当事者、家族及び支援担当者に対し、今後の対応や方針決定についての助言、知識・情報提供を実施し、薬物依存者への早期対応及び再乱用防止の一助とします。 （最終目標と目標年度） 年20回		26回	20回	34回 170.0%	順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 薬物依存症に対する社会の理解が進んでいないこともあり、この問題は潜在化しやすいという特徴があります。そのため、実態の把握が難しく、成果を数値化することは困難です。活動の状況は、継続的に家族教室や個別相談を実施していることにより、事業が着実に進んでいると判断しました。一定の参加者があったことは、問題の潜在化と深刻化を防止する意義があったものと考えます。薬物の検挙者は横ばいで推移しており、対象者は減っていないと推定されるため、今後も継続的に相談できる場を維持することが重要であると考えています。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 相談や家族教室など事業の実施にあたっては、地域の回復支援施設や自助グループの関係者と協働することにより、プログラムの充実や行政職員のノウハウの蓄積を図っています。このことにより、効率的・安定的に事業を実施することができています。今後も回復支援施設や自助グループだけでなく、司法機関や医療機関の取り組みなども参照し、事業の効率性と有効性を高めることを検討します。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

現在の方法を続けながら、国のモデル事業の成果等をふまえ、より実効性が高い支援方法を検討していきます。

「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	デートDV予防啓発事業						掲載ページ		
							114		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	総務企画局
		7,348	千円	5,976	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	男女共同参画推進課

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 高校生・大学生等を対象とした出前講演の開催など、若年層に対するデートDV（恋人間で起こるDV）への理解促進と予防啓発に取り組みます。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	高校・大学の教職員等を対象とした「デートDV予防教室活用セミナー」や「デートDV予防教室」を開催します。あわせて、デートDV予防啓発広告を掲載します。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	「デートDV予防教室」参加者数	高校生・大学生等を対象にデートDV予防教室の開催が、デートDV予防に関する理解を深めることにつながると考え、参加者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）—	2,798 人	—	4,063 人	大変順調
「デートDV予防教室」開催回数		高校生・大学生等を対象にデートDV予防教室の開催が、デートDV予防に関する理解を深めることにつながると考え、開催回数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）—	32 回	—	34 回	順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	デートDV予防教室では、より多くの高校・大学等にて開催し参加者も増えており、直接、理解促進を働きかけることができたことから、順調としました。 また、一般紙にデートDV防止に関する啓発広告を掲載し、広く周知するなど、概ね計画どおりに取り組みました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	（公財）アジア女性交流・研究フォーラムが養成したデートDV予防教育ファシリテーターや、NPO法人を講師として活用したり、県と連携して周知等に取り組むことにより、効率的な事業実施に努めています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

平成27年度も引き続き、関係機関との連携を図りながらデートDV予防教室を開催するとともに、教職員等関係者や若年層に対し、積極的に広報啓発に取り組みます。